

2014年11月12日

各位

積水ハウス株式会社

ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン

積水ハウスとダイアログ・イン・ザ・ダークの共創プログラム  
住ムフムラボ「対話のある家」  
「IAUDアワード2014」において「IAUDアワード」を受賞

積水ハウス株式会社(本社:大阪市北区、社長:阿部俊則)は、11月11日(火)に発表された「IAUDアワード2014」(主催:一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会<IAUD>、事務局:横浜市青葉区)において、積水ハウスとダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン(本社:東京都渋谷区、代表:志村真介、以下DID)との共創プログラムである、住ムフムラボ「対話のある家」が「IAUDアワード 住宅・建築部門」を受賞しました。



「IAUDアワード2014」は、国際ユニヴァーサルデザイン協議会が、“一人でも多くの人が快適で暮らしやすい”UD社会の実現に向けて、特に顕著な活動の実践や提案を行っている団体・個人を表彰するものです。

受賞テーマ:住ムフムラボ「対話のある家」

積水ハウスは、誰もが「いつもいまが快適」と感じながら暮らせる住環境の創造を目指す「生涯住宅思想」のもと、長年にわたりユニバーサルデザイン(UD)研究を行っています。一方、DIDは感性を高め「関係性の回復」「多様性を認めること」でよりよい社会の形成を目指して、対話する場を提供しています。

この両社で共創した体験型プログラム「対話のある家」は、完全に光が遮断された「純度100%の暗闇」へグループで入り、暗闇のエキスパートであるアテンド(視覚障がい者)のサポートのもと、暗闇の中を探索し、住まいにおける様々な生活シーンを体験します。その過程で視覚以外の様々な感覚を研ぎ澄まし、お互いに助け合って生活行動を体験することで、コミュニケーションの大切さや人の温かさを感じ、自分にとっての家という存在を再認識することができます。家に対する気付きが、身の回りのUDへの理解にもつながっていくと考えられます。このオリジナルのプログラムは「グランフロント大阪」内の積水ハウスが運営する「住ムフムラボ」でのみ提供され、「ソーシャル・エンターテインメント」として昨年4月のオープン以来約6,000人の方々に体験を頂いています。

また、視覚を閉ざして心地よさや分かりやすさを感じることで、新たなUD商品の開発を行うことができ、住ムフムラボ「対話のある家」で活躍する視覚障がい者のアテンドも研究開発に関わることにより、細部まで気配りのできた商品の開発が可能になります。

研究開発の一つとして、「しめ忘れお知らせキー II」(2014年1月発売)は、家を出た後でもポケットやカバンの中でも触るだけで鍵を閉めたことを確認できる機能を追加したもので、視覚障がい者のアテンドや一般生活者と共創ワークショップを行い、使用する側の視点を反映し開発されました。



「対話のある家」会場入り口の様子



体験前の説明の様子



鍵をしめると突起が出て「オレンジ」が表示される



鍵をあけると突起が引っ込み「オレンジ」の表示が消える

「しめ忘れお知らせキー II」

(ご参考)

■積水ハウス×ダイアログ・イン・ザ・ダーク共創プログラム「対話のある家」第6回 概要

- ・開催場所 : グランフロント大阪 北館ナレッジキャピタル4階  
積水ハウス「SUMUFUMULAB(住ムフムラボ)」
- ・開催期間 : 2014年9月28日(日)～11月24日(月・祝)  
「真っ暗の中で読書の秋」  
2014年11月27日(木)～12月22日(月)  
「誰かの幸せを願うクリスマス」
- ・定休日 : 火曜日・水曜日
- ・所要時間 : 70分
- ・参加人数 : 1グループ・6人まで(完全予約制)
- ・参加料金 : 大人3,500円／学生2,500円／小学生1,500円 (税込)
- ・購入方法 : ダイアログ・イン・ザ・ダークのホームページからのWEB予約  
<http://www.dialoginthedark.com/>  
(住ムフムラボHPのトップページにもリンクを掲載しております)
- ・「対話のある家」お問い合わせ事務局 : 0120-29-2704

■ダイアログ・イン・ザ・ダークについて

ダイアログ・イン・ザ・ダーク(以下DID)は、1988年にドイツで、哲学博士アンドレアス・ハイネッケの発案により生まれました。参加者は完全に光を遮断した空間の中へ、グループを組んで入り、暗闇のエキスパートであるアテンド(視覚障がい者)のサポートのもと、中を探検し、さまざまなシーンを体験する「ソーシャル・エンターテイメント」です。

世界約35カ国・130都市で開催され700万人以上が体験。日本では、1999年に初開催、東京・神宮前では2009年から常時開催しています。「住ムフムラボ」での「対話のある家」は、DIDとの共創によるこの地だけのメニューであり、関西初の長期開催プログラムです。

■DIDとの共創プログラム「対話のある家」について

積水ハウスは「生涯住宅」思想のもと、長年にわたり「スマートユニバーサルデザイン」などの研究活動を続けてまいりました。

その一環として、「感じる力」、「関係性の回復」、「多様性を認める」を目的に、対話する場を提供し続けるDIDとの共創プログラム「対話のある家」を通じ、日常では得られない気づきやコミュニケーション向上の機会を提供しています。また、「家」という暮らしの中心にある舞台を題材にした季節感のある体験メニューを開発し定期的に提供しています。

さらに、ブランドビジョン「SLOW & SMART」を実現する住まいの快適性を深化させる研究や、「コミュニケーション」「チームビルディング」「リーダーシップ」の養成を目的とした研修等にも展開していく予定です。



■積水ハウス「SUMUFUMULAB(住ムフムラボ)」について

「住ムフムラボ」は、大阪駅前「グランフロント大阪」に2013年4月26日に開設した、未来を見据えた新しい情報の発信や、お客様と一緒に理想の住まいのカタチを共創する、積水ハウスの体験型施設です。